



公益社団法人 日本山岳会

## 宮崎支部報

第79号



扇山登山口より南方 九州山地を望む

## 霧立越え古道調査および向坂山・白岩山 8月19日(土)～20日(日)

梅雨明けの暑さの続く2日間、懸案の古道調査(霧立越え)を兼ねて、宮崎を9:00出発。まず、扇山から向坂山・白岩山を越える登山口調査のため、日向路から諸塚・椎葉路を越え松木登山口の調査から。私にとっては椎葉中学校在任来50数年ぶりの懐かしい椎葉路の変容にただ驚くばかり。二車線の見事な道路とトンネルを抜けながら昼には椎葉に着いた。昼食は鶴富屋敷で手打ちそばを頂く。ここで教え子と店主の96歳のご母堂と再会。嬉しいひと時を過ごした。

ここから登山口調査に出発。桑の木原からダム湖へ。ダム湖の堰上を車で走り、松木から扇山登山口を探してくねくねと長い長い補装道を登り始める。生活道でも、切り出し道でもなさそうな登山道をよく作ったものだと感心する。標高1200mあたりに広場が現れ、トイレもあるここが登山口であった。此処からの眺望が素晴らしく九州中央山地(三方岳・石仁田山・石堂山・市房山・江代山・銚子傘・時雨岳)など素晴らしい山並みが見渡せた。さらに霧立越えの看板があり霧立越(向坂山～杉が越～白岩山～水飲みの頭～灰木の頭～馬つなぎ場～扇山)全長11.5kmの表示を確認し、再び椎葉に戻り五ヶ瀬へ。

新しい神話街道を通る。長いトンネルを越えれば

谷口 敏子

そこはもう五ヶ瀬、やまめの里に着いた。夕食時、程良くビールもまわったところで、店主、秋山様の講和を拝聴する。昭和30年代からの森林開発によるブナ林の崩壊から再生までの道のり、その後のシカの被害から森の再生への取り組み。さらにブナ林に源流を持つ川とヤマメの養殖など、五ヶ瀬の森はこの人ならではの再生はなかったろうと思われた。その後霧立越えの先人の道筋など約一時間熱心にお話を伺った。

翌20日、朝食後やまめの里を9時出発。日向組3名と合流。それぞれごぼう畑に車を置き、日向組はスキー場から向坂峠(杉ヶ越)へ、宮崎組はそこから向坂峠へ緩やかな登山道を登る。途中少し脇道に入った谷筋にキレンゲショウマの群落があった。私はなんとしてもこの花に会いたかった。何年振りかの再会に嬉しくて歓声を上げながらスマホに撮った。

ぼたぼたと月の落とせし雫か

キレンゲショウマのほの花明かり

この喜びが一日私の足を軽くした。余韻に浸りつつ杉が越で日向組と合流。少しずつ秋の色を纏い始めた山路は樹々のさやぎも吹く風も清々しい。白岩山頂上で昼食後下山。会友と歩き通すことが出来たことに密かな喜びを感じながらの下山であった。

帰路の途中、利根川集落の八村杉を見学する。平家落人が隠住して建てたという神社があり、那須大八郎お手植えの杉は樹齢800年、樹高54m、樹周13.3mの大樹！息を飲むような巨大さに圧倒された。大地に生きるものの荘厳な生命の営みに比べれば人間のなんと短い儂いものであるかと・・・あてもない事を考えながら、参道の蔭が生い茂る荒れたブルーベリー畑のたわわな実を少しいただきながら帰路についた。宮崎着18:00。

今回も全行程の長時間、運転をしていただいたお二人様、本当にお疲れ様でした。お陰様で良い旅をさせていただいたことに感謝です。

<参加者10> 谷口敏子・多田登美子・服部澄子・栗林淳子・竹田裕見子・荒武八起・多田周廣・服部岩男・平田五男・会員外1

<コースタイム>

**8月19日** 宮崎発9:00～鶴富屋  
12:00(昼食)～扇山登山14:30  
～五ヶ瀬やまめの里15:40(泊)

**8月20日** 五ヶ瀬やまめの里発9:00  
～コボウ畑9:30～キレンゲショウマ群生地～杉が越え10:30～白岩山  
11:30昼食後下山～利根川の八村杉見学～宮崎着18:00



やまめの里(えのはの家)で夕食 秋本 治 氏の講話を拝聴



キレンゲショウマ群生地散策



往時を偲びつつ霧立越えを行く

## [5月定例山行1] 冠岳 5月3日(火)

橋口 三枝子

日向市東郷町にある冠岳、冠状に見えることから、こう呼ばれている。22名の参加にて二つのコースに分かれて登る。15名が槍岩コース。急登をゆっくり30分ほど登ると岩場となる。岩場はしっかり掴む所があり、ロープも設置してあるので、緊張の中にも楽しみながら登って行くと百畳岩と言われる広い岩場に出る。そこに今回の目的のササユリが咲いていた。カサブランカ原種とも言われるだけあって甘い香りがマスクの上からも漂う。盗掘等で希少植物となったが、日向の会員平田さん達が中心となり保護活動をされている。全株の根本に「保護監視中」と書いたラミネートに番号を付けて守っている。その効力もあり小さい株も増えてきたようで今後は楽しみだ。

第一展望所からの耳川が蛇行する風景も絶景だ。冠北岳から冠岳の山頂、そこから5分程の所の切れ落ちた広い千畳岩も圧巻だ。ここで昼食を済ませ中岳に。そこから新たに平田さん達が整備を進めているという隠し田へのコースを案内してもらおう。テープを頼りに急な斜面を下ること10分、谷あいには隠し田が開けてくる。江戸時代、年貢の厳しい取り立てに苦しんだ村人が隠密に作ったと言われる。今でも立派な石垣が残っていて湧き水もあり17段ある。貴重な歴史の遺産としてこれからも大事に保存していきたいものだ。

この後は滝コースを下る、まず2段滝、滝の横の急傾斜をロープ伝いに慎重に足場を確認しながら進む。途中ロープのない所にも持参したロープを設置してもらい安心して渡ることができた。続いて滝横の林の急傾斜を下りて、最後に2段梯子を下りると緑の中に樋口滝が見事だ。ここから30分ほどで登山口に無事到着。今回は隠し田の見学や岩登りなどいろいろ体験できた素晴らしい山行となった。

<参加者名22名> 槍岩コース：服部澄子・栗林淳子・橋口三枝子・蔵屋とよ・竹田裕見子・白賀智子・荒武八起・日高研二・武田芳雄・服部岩男・平田五男・川脇大輝・会員外(末澤朋代、河野孝明、竹田こうき) 正面コース：清家順子・多田登美子・橋口邦彦・多田周廣・四宮林三・川越政則・栗林忠信

<コースタイム> ヤマダ電機7:30～冠岳登山口9:15(9:45発)～百畳岩10:45～冠岳(千畳岩)11:30昼食(12:20)～隠し田12:50～樋口滝14:25～登山口15:00～ヤマダ電機17:15



冠岳登山口



ササユリ

## [5月定例山行2] 高千穂の峰 5月21日(土)

畑島 良一

霧島山系のツツジは、深い山に咲くツツジとして「牧野富太郎」がミヤマキリシマとして命名した。高山で葉や花が小型化し、日当たりでは枝が密に分かれ樹高の成長が抑えられた。度重なる噴火により酸性土壌に強い植物だけが繁殖したようだ。ススキやウツギ類も残った。自然公園ではあるが多少の手入れをしないとミヤマキリシマの群生が侵食されることも懸念される。最良な時期であったが、低気圧と前線や北の高気圧の配置で雨を伴う荒天に苦慮し、出発を30分遅く午後後に期待した。支部長挨拶では、久し振りの雨具の着用は、今後の山行のためになるとプラス志向。

高千穂河原で日向からの4名と合流。総勢21名。ビジターセンター関係者が「最近、事故が多い。本日は風も強く馬の背付近では突風に注意」と注意喚起して回っていた。登山組と散策組と分かれて出発。高千穂河原付近でのミヤマキリシマは盛りを過ぎているが、古宮址より上部は見ごろ。ヒメウツギやガクウツギの白い花は可憐だ。バライチゴを食べる野生会員もいた。目に優しい浅緑が差し込む光に輝いている。森林限界

<コースタイム> 大淀川河川敷駐車場発(8:00)～高千穂河原(9:40-10:10)～1100m付近尾根(11:30)～散策路東屋昼食(11:45-12:15)～高千穂河原(12:35)～鹿が原～高千穂河原13:55発～大淀川河川敷駐車場15:50

からガレ場は風が強く、引き返してくる登山者は多い。1100m付近で写真を撮り下山。

散策路ツツジコースの大きな東屋で昼食。ツツジとウツギ類に囲まれ歓談。帰路は駐車場を経て、矢岳に向かう登山道から「鹿が原」へ。鹿狩場からの命名ではないかと思われる。ここは高千穂峰と中岳の鞍部は広々としたミヤマキリシマが咲き誇る平地で絶好のカメラサイト。十分に堪能し帰路につく。容易な山であっても、継続的に定期的に山行を重ねることは、自然の移り変わりを体験し得る良い手段と思える。

<参加者21名> 清家順子・谷口敏子・多田登美子・服部澄子・橋口三枝子・蔵屋とよ・竹田裕見子・白賀智子・荒武八起・吉田直人・日高研二・谷口菊美・武田芳雄・多田周廣・服部岩男・畑島良一・四宮林三・平田五男・川越政則・会員外(興梠三夫・末澤朋代)



高千穂河原 出発前

## [6月定例山行] 烏帽子岳 6月25日(土)

武田 芳雄

予定では陸上自衛隊演習場横の飯盛山であったが、下見をすると演習場脇の湧水町から入るルートは牧場の関係者以外立入禁止で入山できず、その後、山行委員長の日高さんとえびの岳・大浪池を考えるが支部長から、以前桜島が見える烏帽子岳に登った人がいるとのこと。初の山で烏帽子岳に決める。前日から梅雨前線の南下で大雨の予報が出ていたが、平坦な登山道なので大雨でなければ行けると思い出発した。しかし登山口に着くと想像以上の大雨で、停滞する模様。急遽、登山を取り止めえびの高原足湯の駅に向かう。トイレの横にオオヤマレンゲが植えられ、つぼみも2、3個あったが花は盛りを過ぎ、花びらに薄茶色が出ていた。足湯の館では後かたづけをしてくれればテーブルを使い食事をしてほしいとのことでここで昼食をとる。他のグループも何組か使い始める。帰りのコースは霧島温泉地を回り、道の駅霧島神話の里公園に寄り霧島神宮で参拝して帰ることになった。神話の里公園では雨が降り誰も降りようとしな。天気が良いと映えるのだが、桜島も雲のため見えない。霧島神宮では傘を差し参拝する。ゆーぱるのじりには

展望台、平和の塔がある。普通登らないが雨もやんだのでここを登る。温泉は希望者とあったが、参加者に温泉の準備をメールするとかきめ細かいことが必要だったのではないかと後で思った。登山が出来なかったことは残念だが、事故もなく終えたことで良しとしたい。



大淀川河川敷駐車場帰着時

<参加者16名> 谷口敏子・多田登美子・服部澄子・橋口三枝子・蔵屋とよ・白賀智子・荒武八起 吉田直人・日高研二・谷口菊美・武田芳雄・多田周廣・服部岩雄・福島龍好・会員外(吉永小斉平)

<コースタイム> 大淀川河川敷駐車場8:30発～ゆーぱるのじり9:20～烏帽子岳新湯登山口10:30～えびの高原足湯の駅10:40-11:50(昼食)～神話の里公園12:20～霧島神宮12:30-13:10～ゆーぱるのじり13:50-14:30～大淀川河川敷駐車場15:10

## [7月定例山行] 銚岳 7月9日(土)

栗林 淳子

昨年もツチビノキの開花に合わせ銚岳を目指したが、時間切れでパッケン岩止まりとなった。今年は1時間早めの6時にヤマダ電器駐車場を出発する。途中、日向組と合流、9時15分鹿川キャンプ場駐車場に着く。準備を整え、体操をして9時半登山を開始する。1年前の記憶を辿り林道から登山道へ。このあたりも鹿の害があるのか鹿よけのネットが設置されている。杉林から尾根の樹林帯へ。日差しはないが風もなく汗が噴き出し、水分補給を心がけ小休止をしながら高度を上げる。日本一の大スラブに圧倒されると間もなく最初の渡渉点に着いた。しばし冷たい水や出迎えてくれた草花に癒される。その間にも先に着いた日向組の平田さん達が安全に渡渉できるようにと、補助ロープの準備や初心者にはハーネスにカラビナの装着。滑りやすい岩では安全確保にと万全の注意を払い全員無事に渡渉。

銚岳大滝を見上げ、去年と同じようにパッケン岩近くで咲くツチビノキに再会。去年は見なかった白いツチビノキにも出会え、さらに頂上を目指す。いきなり足場の悪い急登が始まり、岩や設置してあるハシゴやロープに手をかけながら慎重に足を運ぶ。木々の視界の開けた深い谷の向こうに、そびえ立つ巨大な花崗岩スラブが見える。頂上の女銚(メンボコ)の上に数人の人影があり、手を振ると振り返ってくれた。危険な場所もあったが無事第二の渡渉点に着きホッと一息つく。あたりにはツチビノキも数本あり見頃をむかえていた。

しばし休憩の後、10分ほどで鬼の目山の分岐に着き、そこから少し林道を歩き再び登山道へ。12時45分銚岳山頂に着く。そこからは眺望がないので、少し先の開けた所で昼食となる。眼下には鹿川キャンプ場、向かいにはだき山、国見山などの山々が連なり、足元にはツチビノキと贅沢なひと時を過ごし1時25分下山開始。来た道を下り登りにも増して厳しく大変だったが、平田会員らの的確な指示とロープ設置で慎重に下る。予定より遅れたが4時15分全員無事にキャンプ場に下山。

〈参加者12名〉 服部澄子・栗林淳子・橋口三枝子・荒武八起・日高研二・武田芳雄・服部岩男・平田五男・栗林忠信・白賀智子・会員外(2名)

〈コースタイム〉 ヤマダ電器駐車場6:00～鹿川キャンプ場駐車場9:15～9:30～パッケン岩11:35～林道分岐12:30～銚岳山頂(昼食)12:45～13:25～鹿川キャンプ場駐車場16:15～16:40～ヤマダ電器駐車場19:15



ツチビノキ



銚岳登山口

タマガワホトトギス

## [グループ山行] 韓国岳 6月7日(火)

中武照子

快晴とはいかないまでも、そこそこの天気にも恵まれて宮崎を午前7時出発。途中、ゆーぱるのじりで同行の4名と合流して全8名で目的地えびの高原へ。野尻・高原・御池・霧島・大浪登山口を経て9時位にえびの高原駐車場に到着。硫黄山からは入山禁止の為、つつじが丘から回り道をする。山の中に入ると、カッコウ・ホオジロ・ウグイス・ヤマガラ・その他の鳥達が歓迎してくれた。硫黄山のモクモク上がる蒸気と足元に響くゴーンという不気味な音に胸騒ぎを覚えながら、長い丸太の階段を息を切らして登る。眼下に不動池、六観音御池、白鳥山、甕岳を眺めながら、ドウダンツツジやリンドウ等の花も疲れを癒してくれた。5合目まで登ってくると、すっかり視界が開けてミヤマキリシマが見事な見ごろを迎えていて頂上への斜面は正にお花畑であった。立派な避難小屋(5合目)も完成して火口の周りには手すりも出来ていた。火口の向こう側につつじと緑の対比が素晴らしくきれいだった。お昼位に韓国岳頂上に到達した。大浪

池は神秘的に満ちた深い濃い緑色の水を湛えていた。噴火後初めて見る新燃岳の姿は爆発の痕跡が痛々しく残っていた。高千穂峰は優美な姿が健在だった。

今回頂上で両足が攀るといふアクシデントに見舞われて同行の皆さんに大変な迷惑をかけてしまった。薬を頂き両足を何度もマッサージして励まして下さった皆さんに心から感謝御礼申し上げます。



〈参加者8名〉 栗林淳子・橋口三枝子・中武照子・川越政則・会員外(大住・山本・蛭川・井久保)

〈コースタイム〉 ゆーぱるのじり7:30～えびの高原登山口9:00～9:20～5合目10:40～韓国岳山頂11:40(昼食)山頂発12:30～えびの高原登山口着14:55

## 「山の日」イベント 8月11日(木・祝日)

「山の日」は、山に親しむ機会を得て山の恩恵に感謝する趣旨で、国民の祝日として制定され今年で7年目となる。8月11日、山の日記念イベントが双石山・加江田溪谷において、宮崎市山岳協会(当宮崎支部を含む9団体)と加江田溪谷の会の共催で開催された。参加者は全体で86名、うち一般者が36名、当支部からは13名の会員が参加した。午前8時、丸野駐車場の広場で開式行事が行われた後、双石山登山と加江田溪谷ハイキングコースにコース分けをし、班編成後、広場を出発した。

### 双石山登山コース

日高 研二

登山コースは、ひょうたん淵から麻畑を経由し双石山小屋までの往復コース。猛暑の中の山行で暑さは覚悟していたが、予想以上のきつい登りとなった。太陽の光は緑の木々に遮られてはいるものの風が吹かず、汗だくになりながら山小屋を目指した。昨年も同じコースを選択したが、今回は尾根までの道のりが非常に遠く感じられた。途中、参加者1名が体調を崩されスタッフの方が介助し下山されたが、その方を除いて、全員無事山小屋に到着。そこでは、参加者がリフォーム予定の山小屋の説明を受けたり、遠方の景色を眺めながら和やかに歓談されていた。山小屋で昼食を済ませ、集合写真を撮影した後、下山した。

なお、宮崎航空大学校に籍を置く川協会員と校友達も参加しており、双石山は初めてで是非山頂まで行きたいとの希望があり、私と武田会員で案内した。

丸野駐車場広場に帰り着くと冷えたスイカが用意されており、猛暑で火照った身体には最高のおもてなしで疲れも吹っ飛び、周りの参加者の表情も笑顔がこぼれていた。来年もチャレンジしたい！！

<参加者8名> 服部澄子・栗林淳子・橋口三枝子・荒武八起・日高研二・武田芳雄・服部岩男・川脇大輝・会員外3名

<コースタイム> 丸野駐車場広場8:40発～ひょうたん淵～麻畑～11:45双石山山小屋(昼食)12:30～麻畑～ひょうたん淵～丸野駐車場広場着14:00



イワタバコ



タニワタリノキ



開会式

### 加江田溪谷ハイキングコース

多田 周廣

加江田溪谷ハイキングコースは、約10名を1組とし、4組(総参加者約40名)に分かれての行動である。この日の天気は曇り時々雨、晴天ならばさすがの溪谷歩きでも暑かったであろうが、道中カッパを着たり脱いだり、傘をさしたり閉じたりと忙しかったが、小雨の中を歩くのも気持ちが良い。この日の天候は気分転換に最高の日和であった。

昔この溪谷を「日向ライン」と呼ばれた時代から何十回歩いたであろうか、今でも鮮明に記憶にあるのは小学校六年生の遠足でこの溪谷の中ほどの岩から岩へ飛び越したとき学生服を着たまま滑って川に落ちた。泳ぎは得意であったので、私はしまったと思ったが、別に驚くことも無かった。後になって岩に頭でも当たっていたらとヒヤツとしたが、川から上がると同級生や先生方が右往左往されていた。ここを歩くたびに思い出される。ただ、どの辺りだったか記憶にない。

今回は……昨年もそうであったが、「加江田溪谷の会」のメンバーの方が植物の説明を細かくしておられた。クサギの花が美しく咲いており、イワタバコやギボウシも少し花を付けていた。これらは食用になるが、特にセイタカアワダチソウは、新芽をサッと茹でてポン酢で食べると美味しいとのこと。タラヨウ(多羅葉)の葉っぱは、ハガキになり葉っぱの裏面に字が書けて切手をはれば郵便局もOKとの事。また、このタラヨウの木は郵便局のシンボルツリーになっている事を初めて知った。また、この溪谷には「ひょうたん淵」「硫黄谷」等々の名前が所々についているが「しばぜき」の由来も初めて知った。「しばぜき」は伐採した木材を下流に運び出すため、溪谷には随所に貯水する堰止めが作られていて、水と材木がたまった堰を一気に切って一挙に流すとのこと。この地点は当時の面影が残っているところだそうだ。近年になってトロッコで材木を運び出したが、それ以前はと思っていたがこの「しばぜき」で納得できた。

とにかく、良い一日であった。又、寿命が一年延びたような気がする。後半雨もあがり午後2時頃、丸野駐車場に到着していただいたスイカは甘くて最高だった。

<加江田溪谷散策組参加者5名> 清家順子・多田登美子・多田周廣・櫻木勉・川越政則

<コースタイム> 省略

## [宮崎の自然] ササユリ

石井 久夫

ササユリは宮崎県北東部の花崗岩地帯(大崩山、鬼の目山、冠岳)に点々と隔離分布している。和名は葉が笹に似ているため、または笹の中に自生するものが多く名づけされた。ササユリは本州中部以西、四国、九州の一部の低山地に自生する日本独特の固有種である。多年草で地下に鱗茎があり、シイ、カシ帯の日陰の林草地に自生する。

花はろうと状、花色はピンクが主で時に純白のものがある。細く剛直な茎に8~15枚の葉が並び優雅で清楚な感じを受ける。花被片は被針形で長さ10~15cmで内花被片の幅は広く、先は外にそり返り花粉は赤褐色でほのかな香りがする。花や花粉の色、葉の幅には変異が多い。鱗茎は雪白色で茎は黄色で白いロウを引き高さ50~100cm、葉は短い柄をもち被針または広被針形で濃緑色で光沢がある。

ササユリの球根は小球性で甘味があり食料となる。澱粉質が良質で栄養価が高く古くから強壯栄養剤として用いられていた。最近では日本で切り花として多く栽培されるようになったものの一つにオリエンタルハイブリッドとよばれる品種があり、カサブランカに代表される大型で芳香の強い花を咲かせる品種群の親は、ヤマユリやササユリなど日本原産のユリである。

昔から色々の祭りに供される花にはユリの花が多いとされるが、古事記によると神武天皇と伊須氣余理比売女(イスケヨリヒメノミコト)との出会の色どる花として山由理草(ヤマユリソウ)の名があげられていて、古代から祭りの花としてヤマユリが利用されたとしているが、これは現在のヤマユリではなく大和地方に多いササユリであったといわれる。

現在では6月18日に奈良市子寺町率川神社(イサガワ)にある三枝祭(百合祭)に近くの山からかり集められたササユリが使われている。このササユリで飾った二つの酒樽を神前に供え緋袴の四人の巫女がササユリをかざして優雅な舞いを献ずるゆかしい祭りには参列者の思いを遠に誘う。

〈メモ〉 ササユリの学名は *Lilium Japonicum* Thunbで高さ約70cmになる多年草、花は淡紅色でロウ状で茎の先端に横向きにつく。和名はササユリの葉が笹に似ているのでその名がついた。花期は6月~7月、生育は低山地、分布は本州中部以西、四国、九州である。宮崎県植物誌によると大崩山、鹿川、鬼の目山、行藤山、土々呂、日向亀崎(権現崎)(南限)と冠岳にも自生している。

ササユリ  
*Lilium japonicum* Thunb

## [自然保護委員会] 双石山小谷登山口育林作業 7月9日(土)

前原 満之

令和2年3月に植樹し、その後手入れを続けている小谷登山口植栽地の育林作業に、宮崎市山岳協会の加盟団体として参加した。参加者は25名。当会からは11名の参加であった。朝8時、集まる所は下の駐車場でなく山中の広場となり、私は遅れた人への道具類(造林鎌、蜂ネット等)を渡すため遅れて山に入る。当日の宮崎市の最高気温は37度。猛暑日の暑い中、各自水分補給しながらの作業である。草刈りの目的は、まずは植栽木の成長を阻害する草や自生木、ツル等を除くことである。そのためには植栽木を探し、その周りをピンポイントで手入れする事が肝要である。そのことはわかっているが植栽木に関係なく、とにかく自分の周りを切る事になりがちである。そうすると救済すべき植栽木周りの手入れがなかなか行き届かない。



繁茂する下草に苦戦

苗木の位置を見つけやすくするため、目印竹を追加して建てたり、竹や苗木にピンク色のテープを取り付けることは重要である(今回、テープの追加取り付けは実施された)。また山には多くの自生木が生えており、その中にはそのまま育てた方がいい木も多い(当面下草の成長を抑制する面からも)。多くの人は切るべき木と残した方がいい木の区別がつかないだろうが、自生木は苗木周りの支障木を切ることにとどめたい。作業の休憩時にはアイスモナカをいただき、10時20分頃作業を終えた。皆さん、お疲れ様!

〈参加者11名〉 多田登美子・服部澄子・栗林淳子・橋口三枝子・前原満之・荒武八起・日高研二・多田周廣・服部岩男・川越政則・栗林忠信



作業を終えて 宮崎支部会員

## ありがとう宮崎の空と山 いつかふたたび

### はじめに

航空大学校とは、1954年(昭和29年)に運輸省(現:国土交通省)がエアライン・パイロットの養成を目的として設立した日本で唯一の学校であり、在學生は約2年をかけて、宮崎座学課程(5ヶ月)→帯広フライト課程(6ヶ月)→宮崎フライト課程(6ヶ月)→仙台フライト課程(7ヶ月)と日本全国を巡り訓練を行う。私達3人は現在第3期の課程を修了したところである。

2021年11月～2022年8月の約10ヶ月間(宮崎フライト課程)においては、日本山岳会宮崎支部の皆様にご挨拶になり、一同心より厚く感謝を申し上げます。

### 宮崎支部の印象

川脇 大輝

座学課程以来1年半ぶりに戻ってきた宮崎では、地元の人達との交流をしてみたいと思い、日高さんに連絡をしてみたところ、宮崎支部の皆さんには暖かく迎え入れていただき、晩餐会や山行(冠岳・双石山)に参加し楽しい思い出をたくさん作ることができた。食事会では、皆さんが気さくに声をかけてくださったおかげで緊張がほぐれ、皆さんの素朴な疑問に改めて気付かされること、応援の言葉に励まされることは多々あった。山行では、平均年齢75歳の皆さんがどんどん山道を登っていく姿に驚かされた。(私の祖父母ではそんなこと微塵も想像することができません!!!!笑)そんなパワフルな姿に将来私が目指したいと思える素敵なお老後の生活を見ることができた気がする。宮崎支部の良さは「人の温かさ」にあると思う。今後も皆様が元気に明るく健康に山登りできること、宮崎支部のご隆盛をお祈り申し上げます。そしてまたどこかでお会いできる日を楽しみにしています。

### 空からみた九州の山

河野 孝明

航空大学校では長崎や大分、種子島など九州各地の空港へ航法訓練を行う。長崎や熊本へ向かう際は小林やえびのの通って鹿児島県出水市に抜けるのが定番だ。離陸してすぐ正面に霧島連山がそびえたっており、霧島は我々航大生にとっても思い入れが深い。冬は空気が澄んでいて霧島から桜島までくっきりと見渡せる景色は壮観である。この道を目指してよかったと思う瞬間だ。無論操縦中はそんな余裕もなく後席で同期の訓練を見学する時の楽しみだ。夏に近づくと霧島付近で雲が発生しやすく山が全く見えなくなることもある。宮崎空港への降下開始場所であるが、宮崎課程では雲を避けなければならず苦戦するポイントになる。韓国岳の登山で楽しかった思い出もあり霧島への思いは様々だ。他にも阿蘇山や九重山、宮之浦岳など九州の代表的な山々を間近に見ることができ、山への興味が一層強くなった。将来も九州を訪れ様々な山を楽しみたい。

### 九州の山を登って

青木 勇人

九州では韓国岳、開聞岳、久重山、祖母山、双石山に登り、これまでに23座の日本百名山に登頂した。その中で最も感動したのが久住山だ。雪の積もる1月に軽アイゼンを装備して久住山と中岳に登った。山頂からは360度白く輝く美しい銀世界が広がり、正面には阿蘇の広大な大地、背後には九州本土最高峰の中岳を見渡すことができ圧巻だった。将来、パイロットを引退したら山小屋を開きたいと思っている私にとって、すごく魅力的な山だった。以前、経験を積むために尾瀬の山小屋で3カ月間、住み込みのアルバイトをしていた。東北の山と比べると、九州の山の魅力は、標高が低く温暖な気候だからこそ、四季の変化を楽しみながら、年間を通して登れることだと思う。一方で、火山活動の活発な山が多く、荒々しい面があるところも魅力的だ。そんな魅力ある九州のどこかの山で、将来山小屋を開きたいと思う。



久住山山頂にて



左:川脇 中央:河野 右:青木

## 支部行事予定(10月～3月)

## [事務局だより]

月日	行事名	備考
10月6日(木)	第275回定例登山研究会	宮崎市中央公民館
10月9日(日)	定例山行 猪八重溪谷	北郷町 清武ナフコ駐車場8時半集合
10月22日(土)	定例山行 開闢岳	鹿児島県指宿市924m 清武ナフコ駐車場7時集合
11月2-3日(水、木)	宮崎ウエストン祭	中止
11月10日(木)	第276回定例登山研究会	宮崎市中央公民館
11月26日(土)	定例山行 矢岳	えびの市
12月1日(木)	第277回定例登山研究会	宮崎市中央公民館
12月10日(土)	小谷登山口周辺清掃・年次晩餐会	小谷登山口駐車場 9時集合
12月18日(日)	定例山行 山陰逃散一揆の道散策	東郷町 ヤマダ電器駐車場8時集合
1月5日(木)	第278回定例登山研究会	宮崎市中央公民館
1月8日(日)	定例山行 可愛岳	北川町 標高723m ヤマダ電器駐車場7時集合
1月21日(土)	定例山行 油津・津の峯散策	日南市
2月2日(木)	第279回定例登山研究会	宮崎市中央公民館
2月11-12日(土日)	定例山行 向坂山・雪上訓練	五ヶ瀬町 標高1684m
2月25日(土)	定例山行 高千穂・秋元	高千穂町 福寿草観察
3月2日(木)	第280回定例登山研究会	宮崎市中央公民館
未定	諸塚山山開き	諸塚村 標高1342m
未定	双石山山開き	清武町丸野駐車場

## 支部会務報告(5月～9月)

月日	事業・行事	開催場所	人員	備考
5月3日(火)	5月定例山行1	冠岳	22	
5月12日(木)	第271回定例登山研究会	宮崎市中央公民館	16	
5月21日(日)	5月定例山行2	高千穂の峰	21	
6月2日(木)	第272回定例登山研究会		15	
6月11-12日(土日)	6月定例山行1	白鳥山・時雨山		荒天のため中止
6月25日(土)	6月定例山行2	帽子岳	16	
7月7日(木)	第273回定例登山研究会	宮崎市中央公民館	16	
7月9日(土)	小谷登山道育林作業	小谷登山道	11	市山協主催 25名
7月10日(日)	7月定例山行1	鉾岳	12	
7月23日(土)	7月定例山行2	蘭牟田池外輪山		コロナのため中止
8月4日(土)	第274回定例登山研究会	宮崎市中央公民館	15	
8月11日(木)	山の日イベント	双石山・加江田溪谷	12	市山協主催 86名
8月27-28日(土日)	8月定例山行	向坂山・白岩山	10	兼古道調査
9月1日(木)	第274回定例登山研究会	宮崎市中央公民館	15	
9月11日(日)	9月定例山行1	阿蘇一の峰・二の峰	16	
9月24日(土)	9月定例山行2	えびの高原池めぐり	5	

**投稿のお願い** 山行に関するものはもとより、随筆・詩・短歌・俳句など何でも結構ですので皆様の積極的な投稿を何卒よろしく願います。また支部報に関するご意見などありましたら編集委員会へ忌憚なくお寄せください。

**カラーページのご案内** 配布します本支部報は、経費節減のため白黒印刷ですが、日本山岳会ホームページの宮崎支部を開きますと全ページがカラーで閲覧できますので是非ご覧ください。

## 編集後記

先日、支部会員10名で上高地・北穂高岳へ出かけました。天気にも恵まれ楽しい山行となりましたが、前回と同じルートを登ったのに今回はとても長く厳しく感じました。山は逃げませんが、歳は駆け足で逃げていくようです。

今回の支部報の巻頭には霧立越えの古道調査を兼ねた記事を掲載しました。また、航大生の皆さんにも特別に寄稿していただき、若さあふれる内容となりました。月例の定例山行もほぼ予定どおり実施でき、その紀行文から会員の元氣と楽しさが伝わってきます。ご協力に感謝申し上げます。次号もお楽しみに(荒武)。

公益社団法人 日本山岳会宮崎支部報 第79号

発行責任者：荒武 八起

編集委員：谷口 敏子(編集委員長)、多田 登美子  
栗林 淳子

事務局：日高研二

〒880-0933 宮崎市花山手東2丁目17-11

Tel, Fax 0985-52-6685, 080-1766-1207

E-mail: k-hidaka@har.bbq.jp

口座：ゆうちょ銀行 記号17310 番号16269811

名義人：(社)日本山岳会宮崎支部